



7 [神武さまがくじらをめがけて銚を投げようとするシーン]

神武さまは、自ら銚（もり）をもってくじらを捕らえようとしてました。

長友達哉

ながとも たつ や



8 [女性が神武さまに頼むシーン]

突然（とつぜん）、軍船の後方（こうほう）から女性の声が聞こえてきました。

その女性は、神武さまに頼（たの）みました。

「私は、北の海から子どもを産むためにここにやって来ました。

どうか、どうか、子どもを産むまで見逃してください。」

さかもと こうた

坂本 滉生



甲斐春乃

9 [軍船の横に、大きなくじらのしっぽが現れるシーン]
そこで、神武さまは、その女性に約束（やくそく）しました。
「あいわかった。銚は打つのはやめよう。」

すると、その女性は、どこともなく消えていきました。

8



甲斐春乃

10 [荒波の日向灘の軍船]

それから一月たっても、神武さまの軍船は荒波（あらなみ）の日向灘（ひゅうがなだ）で進路（しんろ）をはばまれておりました。

⑨

⑨



11 [神武さまと女性が話すシーン]

ある日突然 (とつぜん)、神武さまの前に子どもを抱いた女性があらわれ、言いました。

「その節は、ありがとうございました。

このように元気な子どもを産むことができました。

まだ子どもですが、海のことにはよくわかります。

この子を水先案内役 (みずさきあんないやく) としてお使いください。」

そう言うと、その女性は、力づきてしまいました。

。たかく わかな (高久 稚菜)

。たかく めぐみ (高久 恵) (10)

。わたなべ ひな (渡邊 陽南)